

福松くん & お梅ちゃん人形贈呈



多くの方々に広くPR

8月31日、角館企画集団トリアングルより角館マスコットキャラクターの福松くん、お梅ちゃんの3D製作人形が仙北市へ贈呈されました。

この人形は、(有)角館きかたと秋田県産業技術センターの協力を得て製作されたもので、実に精巧に作られています。

トリアングルの石橋正則会長は「市長室に置いていただき、たくさんの方々の訪問客に紹介して

もらいたい」と話していました。今後も福松くんとお梅ちゃんの人気がさらに高まりそうです。



市役所田沢湖庁舎で行われた贈呈式。福松くんから門脇市長に人形が贈呈されました。

出品対策共進会で優等賞受賞



優等賞で高評価

8月21日、由利本荘市内で、来年開催される「第11回全国和牛能力共進会宮城大会」に向けての「第1回秋田県出品対策共進会」が開催され、発育の良さや毛並みの良さ・調教技術などについて審査されました。

仙北市からは、郡の共進会を勝ち抜いた3頭が出品され、菅原孝作さん(角館町藺田・うちやま309号)と相馬勲さん(角館町白岩・におう272号)が、



大仙市の農家の方と4頭1群の繁殖雌牛群を組み、見事優等賞を受賞しました。

審査員からは「牛だけでなく調教技術が素晴らしい」との評価をいただきました。今回受賞した4頭から秋田県代表として選抜されることが期待されます。

全力でたすきをつなぐ

8月30日、田沢湖畔で「第46回大曲仙北中学校田沢湖一周駅伝競走大会」。「第21回大曲仙北中学校田沢湖女子駅伝競走大会」が行われ、男子26チーム、女子25チームが参加しました。

男子(7区間20・6km)は大曲Aが1時間7分20秒、女子(5区間12・6km)は角館Aが45分34秒で優勝しました。



第46回大曲仙北中学校田沢湖一周駅伝競走大会 第21回大曲仙北中学校田沢湖女子駅伝競走大会



市内中学校の成績

【男子】▼2位角館A ▼7位角館B
▼9位神代 ▼11位生保内A ▼15位西明寺A ▼22位松木内 ▼25位西明寺B ▼26位生保内B【女子】▼1位角館A ▼14位西明寺 ▼15位生保内A ▼16位角館B ▼17位神代 ▼23位生保内B ▼25位松木内

第46回生保内節盆踊り大会



盆行事を締めくくる

8月20日、田沢湖庁舎前駐車場で「第46回生保内節盆踊り大会」が開催されました。

昨年からの「盆踊り大会」にリニューアルしたこのイベントでは、盆踊り賞や仮装賞、また各企業等からの協賛品など多数の賞品が用意されました。

当日は踊りがわからない人も盆踊りの輪の中に入って楽しめることもあり、約400人が参加しました。また、地元の郷

土芸能や多彩なアトラクションが行われ、出店コーナーも立ち並び、会場は賑やかな雰囲気になりました。



たくさんの参加者が集まり、大きな輪になって盆踊りを楽しみました。

角館中学校で樺細工体験学習



伝統工芸に親しむ

8月19日、角館中学校で美術部の生徒を中心に20人が樺細工の体験学習を行いました。

これは(一財)伝統的工芸品産業振興協会による「児童・生徒に対する伝統的工芸品教育事業」の一環で、職人が学校に出張して、伝統的工芸品のことを教えるものです。生徒たちは、樺細工職人の指導のもと、手慣れた様子で切り抜いた桜の花びらをパネルに貼り付けていきました。



次回の学習で横150センチ×縦45センチのシダレザクラの大きなパネル板が完成します。どんな作品に仕上がるか楽しみです。

樺細工職人の指導を受けながら、桜の花びらの模様を板に貼り付ける生徒たち。

夏空に響くロビーコンサート



実力派バンドが登場

8月19日、仙北市民会館前でロビーコンサート「夏広場!黄昏BEATON!」が開催されました。このイベントは2部構成で行われ、第1部では(一財)日本郷土民謡協会生保内支部の皆さんによる歌や手踊りの芸能発表が行われました。

第2部では、実力派バンド「たいらかずみとスウィング・チェリース」が登場。幅広いジャンルのヒットメドレーを軽快な生



演奏で次々と披露し、多くの観客を楽しませました。

夏の夜空に響き渡るサウンドに、100人以上の来場者からは大きな歓声と拍手が送られていました。

世界ラート競技選手権大会



今後も活躍に期待

8月29日、ラート競技者で国内外で活躍されている高橋靖彦さん(角館町出身)が6月にアメリカで開催された「第12回世界ラート競技選手権大会」の男子シニア部門個人総合で3位、団体で2位のほか、種目別では直転で優勝、跳躍で2位に入賞しました。ラート競技とは、鉄の輪を平行に繋いだ器具を使い様々な体操を行うドイツ発祥のスポーツ。高橋選手は「個人



総合では3連覇を達成できなくて悔しい思いをしたが、種目別では納得できる演技ができてよかった」と話しました。

仙北市役所田沢湖庁舎に報告に訪れた高橋選手。「ラートの普及に向けてさらなる努力を続けたい」と話しました。

第40回きたうら水泳競技大会

水しぶきあげ競い合う

8月28日、生保内小学校プールで「第40回きたうら水泳競技大会」が開催され、市内の小中学生などが練習の成果を発揮しました。

主な成績は次のとおり(敬称略)
【総合成績】▼最優秀団体賞・西明寺スプラッシュ▼優秀団体賞・神代小学校
【優秀選手賞】▼三嶋弥千瑠・石川才稀・藤原愛(以上、神代小学校)▼中村陽・櫻田玲愛・



選手たちには多くの声援が送られました。
 柏谷星来・柏谷月翔(以上、西明寺スプラッシュ)▼木元ひなた・高橋陽(以上、きたうらアニア)▼伊藤希彩(角館小学校)

支え合うまちづくりフォーラム

助け合いの心育む

9月1日、西木温泉ふれあいプラザクリオンで「みんなで支え合うまちづくりフォーラム」が開催され、およそ170人が参加しました。

フォーラムでは、公益財団法人さわやか福祉財団の堀田力会長による基調講演や県内・市内で助け合い活動を行う団体の活動事例の発表が行われました。

会場に集まった参加者は、興味深く話を聞くなど、今後の助け合い活動の発展を共に考える良い機会となりました。



基調講演で「近所で協力し、できる範囲で地域に働きかけることが大切」と述べる堀田会長。

仙北市が目指す近未来の姿を考える 角館高校で地方創生講演会

8月19日、角館高校1年生の全クラス210人を対象とした「地域のこと・仕事のこと」と題した地方創生講演会が同校講堂で開催されました。講師は内閣府審議官の藤原豊氏です。

前段は、政府が進めるアベノミクスや3本の矢(金融政策・財政政策・成長戦略)の内容、そして規制改革もたらすものなどを分かりやすく説明。「国とやる気のある自治体がタッグを組み地域発・オンラインワンのまちづくり」を実現するために、全国10地域が国家戦略特区に指定されていることや仙北市の特長が国にとって重要な位置づけになっていること、さらに仙北市が目指す近未来の姿について紹介しました。

後段では「本当の地域の元気」のイメージや「仕事に就く」ことへの不安はどうして起こるのかなど、藤原氏自身の経験を織り込んだメッセージ性の高いテーマについて話しました。



生徒たちは、藤原氏の話を実際に聞きながら、ノートにメモをとっていました。

その中で「情報が氾濫していることで、むしろ戸惑う時代になっています。就職先でやっていけないのか、不安でたまらない人もいるでしょう。しかし、大切なのは自分が好きなこと、得意だと思っていることに正直になることです。それでダメだったら、またやり直せばいいのです」と、生徒たちに温かいエールを送りました。

【講師紹介】藤原豊/千葉県船橋市出身。東京大学経済学部を卒業後、経済産業省に入省。現在は内閣府に出向中。

まちづくり日記

No.106

『みんなでやるから頑張れる』

仙北市長 門脇 光浩

「そこですね、みんなで作るから頑張れるんですね」。さて何の話題だったか覚えていない。でもラジオから聞こえたこの言葉が心に刺さった。確かにそうだ。自分の記憶をたどってみても、川での

素もぐり、部活、テニスト勉強、農作業、就職後は同僚から手を借りて間に合わせた徹夜仕事、最近では職場の仲間と行った登山…。自分だけではない、周囲から力を借りて「諦めました」や「もうダメです」から抜け出して、やっとのこと、目標に近づけることができていく。一人でウォーキングをしている人を最近よく見かけるが、聞くと「草花や雲」と会話をしている人もいた。そんな「みんな」は少し哲学的だが、「みんなで作るから頑張れるんですね」の一言は、人生の真理のような気がする。

誰もが「自分もまわりの将来も光り輝くものになりたい」と願っている。分けてもまちづくりは「みんなで作るから頑張れる」環境が必要だ。「みんなで作るから面白く」も必要だ。この意識を、できるだけ多くの皆さん、特に若い皆さんと共有したい。「これまで仙北市は、災害や

事故・不祥事が続き、若者の夢や希望に答える行政に手が届かなかった。それは「市長の意識が低かったからでしよう」とこの指摘も、全く真摯にお受けする。

それでも最近、市内の若手(市役所職員も含む)を中心に、注目すべき取組みが生まれている。本心に嬉しい。若者は職業や地区の違いをあつさり飛び越え、積極的に協同する。彼らは「泣き言を言っても現状は変わりません。他人のせいにしてはいる自分も嫌です」と話す。そんな皆さんが、間違いなく仙北市を変革し、次代を拓くエネルギーになる。

さて前号の広報せんぼくで、私は経済面を中心に統合庁舎の必要性を訴えた。比較が難しい精神論は、多分に問題を複雑化させる。けれども未来を担う若者や、子育て中の若い家族に、せめて「まちづくりの面白さ」をみんなで作ることで、頑張ろうと「か」思える種を播いておきたい。市役所を小さく(職員数削減・組織再編・庁舎統合など)して、子どもたちや若者を応援する財源を、何としてもねん出したい。若い世代に投資できない組織は、衰退するのが歴史の常だ。

かくのだてフィルムコミッション ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション
 (仙北市観光課内) ☎43-3352
<http://kakunodate-fc.jp/>

8月27日に東京・秋葉原駅で開催された「第2回全国ふるさと甲子園」に参加しました。このイベントは「ロケ地」を観光資源として活用する「ロケツーリズム推進」のため、地方自治体やマスメディア等が連携して観光PRを行うとともに、各地の「当地グルメ」を紹介することで、地域活性化を図るものです。全国から55団体が集まり、「行きたいまちNo.1」を目指し、地域PRを行いました。

イベント会場では「当地ミュージシャンやアイドルのライブパフォーマンス、映画監督の堤幸彦氏によるトークショーなどが催され、イベントはかなりの盛り上がりとなりました。

各団体が個性豊かなPRを行う中、かくのだてフィルムコミッションは「御狩場焼き」をPRしました。



たくさんの人で賑わう、全国ふるさと甲子園会場

ブース内に「たそがれ清兵衛」隠し剣鬼の爪のポスターを掲示し、その場で焼きたての御狩場焼きを提供することで映画ロケ地として、そして「当地グルメ」としての角館町の魅力を午前部・午後部の計6時間に渡り積極的に売り込みました。残念ながら「行きたいまちNo.1」には選出されませんでした。仙北市ブースを訪れたお客さまからは「美味しかった。ぜひ仙北市を訪ねてみたい」等と、多数の好評価をいただき、観光PRとしてまずまずの成果を残せたのではないかと思います。これからも仙北市のPRに努めてまいりますので、市民の皆さまの協力をお願いいたします。
 (事務局 仙北市観光課 鈴木義規)